

Malá, Zuzana

Original versions of translations from Japanese

In: Malá, Zuzana. *Religious practices in the Japanese mountains : from fleeing the hells towards the healthy, sustainable and spiritual practices of the consumer society*. First published Brno: Filozofická fakulta, Masarykova univerzita, 2019, pp. 133-[134]

ISBN 978-80-210-9197-9; ISBN 978-80-210-9198-6 (online : pdf)

Stable URL (handle): <https://hdl.handle.net/11222.digilib/139119>

Access Date: 25. 02. 2024

Version: 20220831

Terms of use: Digital Library of the Faculty of Arts, Masaryk University provides access to digitized documents strictly for personal use, unless otherwise specified.

APPENDIX 1: ORIGINAL VERSIONS OF TRANSLATIONS FROM JAPANESE

note 1: 「しかし、とにかく修験道の山修行というのは日本人の心に深く根着した古来の信仰をベースにしているがゆえ、もっとも日本人にフィットする体験のはずです。山が大好きな日本人のルーツは修験道の世界にあるとっていいでしょう。」

note 2: 「神様と自然一緒なんですよ。だから、自然を愛することは、神様を愛することつながっていくと いう。」

note 3: 「自分としては、日本の古い源宗教性について、学びたいと感じてましたので、この連続講座のコンセプトニーズにあっている。」

note 4: 「「人間はあくまでも自然の一部である」とし、大自然をあがめたてまつる修験道の思想は、日本が世界に誇るべきものだと思います。」

note 5: 「山伏修行一年生の私 では、検証不足かもしれませんが、古来から存在していた山伏は、日本精神性の復興に大きな役割を果たすと直感的に確信しています。」「修行を通じて自然のつながり、人とつながりその間にある豊かさを体験できたから。」

note 6: 「「日本食」や「日本食文化」は、自然との共生や日本の伝統を大切にしながら、味覚のみならず、色彩などの視覚、香りなどの嗅覚、しつらえや空間にまでこだわった、美味しさや、美しさ、楽しさを五感で味わう健康にも良い独自の食文化 である。」

note 7: 「やまぶ修行であったり、神社の区の山でいろんなことを、が体感する体で覚える、体で感じるということを若い人たちに感じてもらって、神社というより自然というか、われわれが生かしているんだという、自然をこういと愛するか、自然をすきに

なるということをすすめています。」「言葉で伝わらないので。きてもらって、たとえば石段登ったり、月山登ったり、滝にうたれたり。。。」

note 8: 「澤登りは今まで経験したことのない、探検のごとき、道無き茂みをかき分けて修行の時よりも自由に身体を動かせることの楽しさに、木の枝にのり上下にゆさゆさと揺れていたら。

自然のリズムにまじってゆくのは本当に楽しいことです。それが上手くゆくために、身体の使い方を工夫するのが楽しかった。また、普段練習しているバレエの基本の身体の使い方がこんなにも山で役立つとはおもいませんでした。筋肉痛も疲労もゼロです！『私は身体だ』とってからでは全ての行に対して向き合う事が楽しくなり、辛い修行は一つもありませんでした。」

note 9: 「心が洗われるというか。本当に頭の中が空っぽになるので、きれいなところになるような気がする。」